

# 令和3年第419回信濃町議会定例会9月会議会議録（4日目）

（令和3年9月7日 午前9時45分）

●議長（佐藤武雄） おはようございます。ただ今の出席議員は12名全員であります。定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。本日の議事日程は、お手元に配布のとおりであります。

日程第1、通告による一般質問を行います。

通告の6、北村秋敏議員。

- 1 旧小学校の校舎の跡地利用について（旧富士里小・旧古海小）
- 2 ふるさと信濃町応援寄附金（ふるさと納税）について

議席番号2番・北村秋敏議員。

◆2番（北村秋敏） おはようございます。議席番号2番・北村秋敏です。通告に従いまして、2点に渡って一般質問をさせていただきます。平成24年4月の信濃小中学校の開校に伴い、5つの小学校が閉校となり、その跡地利用検討委員会から答申が示されました。そして、広報しなの314号1月号に、その答申の内容が書かれております。体育館は、社会体育施設兼災害時の避難所に、校舎は利用希望がない場合、原則取壊しということが書かれております。ただし、企業誘致の対象地として広く呼びかけを行い、要望がない場合においては、校舎は取り壊すとなっております。閉校してから来年で10年を迎えますが、旧古海小学校、旧富士里小学校の今までの経過と現況について伺います。

●議長（佐藤武雄） 横川町長。

■町長（横川正知） おはようございます。北村議員さんの校舎の跡地利用についての質問でございます。今、北村議員からお話ございましたように、新しく小中学校、小中一貫校ができて10年になると、こういうことでございます。その中で、ちょっと余談ですが、今学校も、この間の学力検査でも、全国の平均以上の位置になっているというようなことを、教育長からも報告を受けたわけでございます。その成果は上がっているのだなというふうに思っているところでございます。さて、ご質問の旧古海小学校、旧富士里小学校のこれまでの経過、そしてまた今後どうするかと、こういうことだろうというふうに思います。今までも、平成23年の検討委員会等々の答申を受けまして、それぞれ企業誘致等々、努力をさせていただいてきたということでございます。いくつか、企業さんからもお話があったわけでございますが、なかなか最終的に、何て言いますか、締結できるような状況には至っていないということでございます。当面まだ、引き続き、

## 令和3年第419回信濃町議会定例会9月会議会議録（4日目）

そのようなことも含めながら対応をしてまいりたいというふうに思っておりますが、旧古海小学校の建物の1階部分については今、民間からも一部お借りしたいというような申し出を受けて、そのような対応もさせていただいているところでございます。最終的には、お話がございましたように、最終的には取壊しということも含めて、検討していかなければいけないかなというふうに思っております。ただ、問題は、取壊しの費用の問題もでございます。造るときは様々な補助金なり、交付金なり、起債が使えるわけでございますが、取壊しということになりますと、今の制度上では、一般的には丸々町がその費用を一般財源から出さなければいけないということで、極めて財政上も大きな負担になるわけでございます。そういったことも含めて、今もおっしゃるように、旧校舎の問題については、重要な課題として、私は位置付けておりますが、状況を見ながら、また対応をしていかななくてはいけないなと思っております。状況については、概略で大変恐縮でございますが、そのような方向で今、進んでいるということでございます。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆2番（北村秋敏） ただ今町長からご報告がございましたが、取壊しの費用は、町の財源から出すというようなことですが、1つお聞きしたい点がございまして。校舎は耐震補強をしても、対応年数が延びるわけでないかと、そういうことで、当時の検討委員会等の考えで、耐震補強をしてから企業誘致等の呼びかけをしたらどうかという意見、それから耐震補強をしてあれば、もっと違っていたのではないかと、そういう期待もしてしまうのですが、その辺は、どのように考えているのか伺います。

●議長（佐藤武雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 当時、平成23年頃に様々な検討もされたということは、承知しております。未定の部分に、なかなか公共的財源を投資するというのは、難しい部分もあります。そういった意味では、そのような耐震補強をして、そして何か有効利用でほかの企業さん含めて活用を求め、そのような当時の状況ではなかったのだろうというふうに思いますし、現在も、やはり財政といえども、生きたお金を使っていかなければいけないと、生かすためのお金ということで、使っていかなければいけないということでございますので、今もそういった面では、今後の交渉の話が出れば、様々な状況の変化もあろうと思います。現状では、そこに改めて多額の費用を投資するというような財政状況でもないということでございます。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆2番（北村秋敏） それでは、現在の段階では、投資する考えはないということではないのですが、前向きにまた検討をしていくということだと思います。

## 令和3年第419回信濃町議会定例会9月会議会議録（4日目）

続いて、次の質問に入ります。先月の8月14日に、旧古海小学校では、20年前に埋めたタイムカプセルの開封式が行われました。その模様については、広報しなのにも掲載されております。そのときに、町の総務課の職員の立ち合いのもと、校舎内を見学することができました。確か校長室だったと思いますが、明治の後半から昭和にかけての写真等や、この日のために出席した先生方が、当時のクラスのアルバム等を見て、大変懐かしく感激していました。まだ他にも貴重な古海の歴史が残されているものがあるかと思われます。現在、古海集会所には、旧小学校のスキー大会等の優勝カップや年度別の作文集、ビデオテープなどが保管されております。旧古海小学校の残っている貴重な資料等の保管について、どのように考えているかお伺いします。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） 具体的な事項ですので、私の方で、お話しさせていただきたいと思っております。古海小学校含めまして、5つの小学校があったわけですが、その小学校にあった備品、資料等につきましては、今後使えるもの、また、保存した方がよいと思われるものにつきましては教育委員会で、信濃小中学校開校に合わせて、持ち出しをさせていただいたところがございます。ただ、貴重な資料という点では、教育委員会と地域の住民の方の判断基準、特に思い出の品ということになると、なかなか合致しないと言いますか、分かれるところではあるというふうに思うところがございます。現在、旧小学校内に残っている資料等で地域の方が、保存等を望むものがございましたら今、管理は、総務課の財政係で行わせていただいておりますので、またご相談いただければと思うところがございます。以上でございます。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆2番（北村秋敏） こちらにつきましては、また古海区等も入れて相談をしていきたいと思っておりますので、またよろしくお願ひします。

続いて、次の質問に入ります。校舎内に残っている備品等ですが、当時のままになっているものが多くありました。一部撤去してあるものもありますが、売れるものは売ってもよいのではないのでしょうか。体育館にはピアノも残っていました。ある程度、整理した中で、地域の方に一般公開したらどうでしょうか。お伺いいたします。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） 旧小学校校舎内にある備品等については、使用する見込みがないもの、また使用できないものが置かれているかと思っております。最終的には、廃棄処分となるところがございますが、今後の処分の方法ですが、現在、旧柏原小学校の解体に伴いまして、処分を行っているところがございます。その流れから、ご説明をさせていた

## 令和3年第419回信濃町議会定例会9月会議会議録（4日目）

だければと思うのですが、備品等がありましたら、一般競争入札による公売物品、有価物と無価物を大別して行わせていただいております。公売物品は、町のホームページに品目・売渡価格、入札日等を掲載して、入札に落札した方に譲渡させていただいております。過去に小学校の関係でピアノを公売にかけたところがございます。続いて、有価物につきましては、主に金属類、古紙類になりますが、再資源化の原料として売却をいたしました。旧柏原小学校のことを今、お話をしておるわけですが、最後に無価物につきましては、廃棄処分扱いになりますが、また違った利用方法により、新たな価値を見いだせる可能性もあることから、資源の有効活用を目的に、住民の方に無償譲渡、旧柏原小学校の場合でしたら、今週の土曜日11日に行う予定で広報等にも記載させていただいております。また、そういうかたちで、無償譲渡をさせていただけるというかたちでやっておるところでございます。今、旧柏原小学校でやりましたので、今後、順次、他の小学校もやっていければというふうに考えておるところでございます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆2番（北村秋敏） 今の質問ですが、お答えで、今後、旧柏原小学校の物品譲渡会ですか、そういうものが開かれると、それに準じて、各旧の小学校でもやっていきたいということなので、できるだけ早い時期に、そういった方向でお願いをしたいと思います。

続いて、次の質問に入らせていただきます。古海地区では、4年前から有志が集まって、「古海小学校 花とラジオ体操プロジェクト」を作り、グラウンドの周りに、春から花を植え、夏の間には、校舎の前でラジオ体操を行っております。村の中心に校舎があるので、何とか校舎の周りをきれいにしていきたいという気持ちが強くあります。私ごとですが、私もグラウンドを4回ほど草刈りを行ってきました。今後は、校舎の老朽化の進行に伴い、施設の安全対策や敷地を含めた景観保全のための維持管理が必要となってきます。このことについて、今後、地域とどう連携を取っていくのか伺います。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） グラウンドの花壇等、大変ありがとうございます。今後とも、ひとつよろしくお願ひしたいと思います。グラウンドにつきましては、今現在、社会体育の施設ということで、教育委員会の方で管理をされておるわけですが、総務課とすると、旧小学校の部分、体育館についてはやはり教育委員会の方で社会体育として、利用させていただいております。小学校の維持管理等につきましては、破損箇所への修復や周辺の草刈り、防犯上の観点から、最低限の維持管理をさせていただいております。先ほど、町長の方からも話があったとように、跡地利用については、引き続き、企業誘致の対象として、広く呼びかけてまいりたいというふうに考えておるところでございますが、場合によっては、解体も視野に入れざるを

## 令和3年第419回信濃町議会定例会9月会議会議録（4日目）

得ないという状況でございます。また、具体的に話が進んだ状態で、説明や地元協議の場が必要になってくるというふうに思っておるところでございます。また、維持管理という点では、防犯上の理由等から、また改めて協議をする場合もございますので、そのときは、地域と連携して進めさせていただければというふうに思っておるところでございます。よろしくお願ひしたいと思ひます。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆2番（北村秋敏） 今後、このままの状態が進んでいくということなので、我々、古海地区においては、どうしても、建物が無いと寂しいという、思い出のある場所なので、できるだけ長い期間、そのままにしてほしいということもあるのですが、いずれは、そういった利用者がなければ、取壊しということになるのですが、できるだけ、何らかの形で使えることができればいいなと思っております。財政的にも厳しいことですが、要望としては、できれば、旧小学校の整備事業または跡地利用プロジェクトみたいなものを作って、何とか進めていってほしいなと、ささやかな希望でございますが、そういうふうに考えております。

続いて、ふるさと信濃町応援寄附金について、質問をさせていただきます。以後、ふるさと納税という表現を使わせていただきます。ふるさと納税とは、応援したい自治体へ寄附をする仕組みのことです。寄附をすると、寄附金の使い道を選べ、地域に貢献することができます。さらに、地域の特産物が寄附の返礼としてもらえ、寄附金が税金から控除される制度です。平成20年4月の地方税法等の改正によって、5月からふるさと納税制度がスタートしました。信濃町でも、この年から始まり15件、83万1000円の寄附金が集まりました。全国各地の自治体では、地元の産業など趣向をこらした魅力的な返礼品を作っています。令和2年度の信濃町の寄附金は643件、1124万9000円となっております。これらの寄附金を利用して、信濃町の町づくりに取り組んでおりますが、現在の取り組み状況について、伺います。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） 寄附金の使い道につきましては、ふるさと納税を行われた方々が、その用途を選択できるよう町づくりの項目として、7つの項目を挙げさせていただいておるところでございます。寄附された年、1月1日から12月末までの寄附金を基金に一度積立てまして、次の年度の事業費の財源として、活用させていただいております。活用の状況はホームページでも公開をしておるところでございますが、まず項目の1番目としますと、豊かな自然環境を生かした活力あるまちづくりということで、フォレストスタイル事業や環境学習会事業等へ191万8000円、令和3年度の事業へ充当をさせていただいております。2番目の項目としますと、健康で安心して暮らせるまちづくりということで、健康増進事業へ54万2000円を充当させ

## 令和3年第419回信濃町議会定例会9月会議会議録（4日目）

ていただいております。また、3番目とすると、快適で安全な生活を守るまちづくりということで、町消防団活動費へ28万1000円を充当させていただいております。4番目としますと、未来を担う子どもたちの教育と文化・スポーツを通じたひとづくりということで、小学校教育指導費、109万8000円を充当させていただいております。続いて5番目としますと、医療の充実をめざしてということで、病院事業会計繰出金へ170万4000円を充当させていただいております。6番目としますと、森の中で、心も体も元気になれる癒しのまちづくりということで、癒しの森推進事業へ193万1000円充当させていただいております。7番目は、町長にお任せメニューというかたちになります。老人福祉費の一般事業費、福祉タクシーや路線バスの扶助費等へ、また高齢者生活支援、緊急通報装置等の設置事業、それから農業振興の一般事業費等へ377万5000円を充当しまして、合計は、先ほど議員さんがおっしゃったとおり、1124万9000円を充てさせていただいているところです。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆2番（北村秋敏） 今は使い道について質問しようという項目も説明していただきまして、そこで、全国の自治体の使い道情報というのを私、インターネットでちょっと調べてみました。信濃町の場合も、ほかの市町村の場合も使い道については、今のよう大体、幅広く一般にインターネットの項目に、こう出ているわけですけども、全国の使い方の中で、特に村おこしに使われて、町が活性化している所があるのです。というのは、実際に、一番目に見える場所に使われましたよというような所、例えば、病院の車をふるさと納税で買いましたとか、具体的に言うと、何々に使われましたというような物が、寄附金が、目に見える所に使われたというようなことがわかると非常に地元の方も関心を持つ、それから寄附をされた方も非常に良かったなと感じられます。信濃町応援寄附金充当一覧表は、ホームページで載っておりますので、私もよく見させていただきました。そこで、寄附金の使い方なのですが、自治体からの使い道情報、全国の使い道情報の中に、報告をしているところがあるのです。信濃町の場合は、自治体の使い道情報はありせんということなのですが、できましたら、信濃町でも、こういう所に使われましたという、そういう使い道の報告も別の中に入れてお知らせすると、非常に寄附した側からすれば、良かったなと、こういうふうに使われているのだなというふうになります。そういうことについて、伺います。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） ホームページでも、今ほどお話をさせていただいた内容については、掲載をさせていただいております。もっと具体的にというお話かなというふうに思うのですが、そういうかたちでホームページでも公開できればいいのかなというふうに思います。以上です。

## 令和3年第419回信濃町議会定例会9月会議会議録（4日目）

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆2番（北村秋敏） 報告、昨年度どのぐらい集まりましたので、という報告が当町ではないのですが、よそのページの中には、ありがとうございました、こういうふうに使わせていただいた、しかも車を買いましたとか、そういう項目を載せてあるんですね。そうすると、非常に良かったなという、見た目がいいと言うか、そういう感じに受けて、PRになるのじゃないかと思うのです。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） わかりました。そういう形が取れば、そういう形を是非、載せていければなというふうに思います。今後とも、そういうかたちで検討をまいります。よろしくお願いします。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆2番（北村秋敏） それでは、そういうことでよろしくお願いいたします。

続いて、ふるさと納税の返礼品について、質問させていただきます。お礼の品については、現在、何種類ほどあるのか、また、ふるさと納税に協力されている事業所は、どのくらいあるのか、伺います。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） まず、令和2年度につきましては、20社、54品目でございました。令和3年度の4月現在は20社、76品目で品目は、増えました。8月末に、返礼品の審査会が行われまして、新たにまた25社になりまして、91品目となったところでございます。まだまだ少ない状況ではございますが、今後とも、増やしていければというふうに思っております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆2番（北村秋敏） 私も、8月6日から23日まで、ふるさと信濃町応援寄附金返礼品の追加募集が、町のホームページで行われていたのを見ました。それで、どのくらい新しく商品が追加されたのかということで、98品目になったということで、非常に前向きな姿勢で取り組んでいただいております。今回の募集ですが、できればホームページ上だけでなく、広報しなの等でも呼びかけを行ったら良かったのではないかなと、そんなことも思いますし、また返礼品の見直し等も含めて行って

## 令和3年第419回信濃町議会定例会9月会議会議録（4日目）

ただければいいなと思います。できれば、よその地区で行われているのですが、返礼品の事業者を一堂に集めて見直し会を行う中で、相談会を開いていたらどうかと思うのですが、その点について伺います。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） まず、91品目でございますので、またよろしく申し上げます。全員を集めてということは、今やってはいませんが、個別にそれぞれご相談申し上げ、こういう商品もいかがかなということは、こちらからもご提案しながら進めさせていただいておるところでございます。個別に相談しながらやらせていただいているということです。また、ホームページだけでなく広報等にも載せていかればというふうにも思っておるところでございます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆2番（北村秋敏） それでは、よろしく伺います。できるだけ魅力のある商品づくりの発掘には進んでいただきたいと思っております。

最後の質問に入る前にここで、参考に、近隣の町のふるさと納税の寄附金額について、述べさせていただきます。インターネットでちょっと調べてみました。小川村ですが、令和元年度1700万円。小布施町、令和元年度、4億7200万円。高山村、令和元年度、2400万円。飯綱町、令和元年度、1億6000万円。令和2年度、3億円と。特に今、飯綱町においては、指定管理業者に委託されて行っております。この事業所は、地元の閉校した小学校を再利用した施設の運営を自主的に2019年に設立された、町づくり会社です。ふるさと納税は、信濃町が好きな人を大勢つくれば多くお金が集まるわけですから、まず、この町を知っていただくことが必要だと思っております。どのようにしてPRしているのか、伺います。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） ふるさと納税のPRの関係ですが、まずポータルサイトがございます。それは、各ポータルサイト4つほどに載せてございます。その他、やっている内容でございますが、固定資産税の納税通知書を町外の方へ郵送するときに、ふるさと納税の告知を始めた年からずっと継続的に行わせていただいております。また、返礼品を使った簡単な調理、また、どのような場所で体験ができるか、そのふるさと納税のPRに変えまして、信濃町の魅力的なところを見ていただけるように、動画を今、作成をして、5つぐらいを動画サイトへアップをしておるところでございます。なかなか登録者はそれほど増えていないのですが、155名ほどの方の登録をいただいておりますが、そういうものも使いながら、動画サイトも使いながらP



## 令和3年第419回信濃町議会定例会9月会議会議録（4日目）

Rをしているところでございます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆2番（北村秋敏） いろいろと工夫を凝らしてPRをされているということですが、単純な考えなのですが、寄附をする人は町外の方ですが、ふるさと納税について、もっと信濃町の皆さんにも知ってほしいと思います。そこで、信濃町の地域内からもPRできるものはないかなとちょっと考えてみたのですが、例えば、町内の宿泊施設内に、信濃町を応援してくださいというような、ふるさと納税の寄附金のポスターなどを貼ることはできるのかどうか、お伺いいたします。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） そういうふうにご協力をいただける所があれば、またお願いをしてまいりたいというふうに思います。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆2番（北村秋敏） 先ほどいろいろ、他の市町村の金額をお話ししましたが、信濃町も徐々に増えてきてはおるのですが、まだまだ、このすばらしい信濃町には、金額が少ないと思っております。そんなことで、いろいろとまた努力をしてほしいなと思っております。何かしら信濃町と関わった人が寄附をして、信濃町が良くなれば、町全体に活気が出てくると思います。そこで最後に町長に、今後の取り組みで、現在1100万円なのですが、来年度は2000万円になるようなことで、是非、取り組んでいただきたいと思っておりますので、まとめとして一言、お願いしたいと思っております。

●議長（佐藤武雄） 横川町長。

■町長（横川正知） ふるさと納税の仕組みそのものが、ひとつは純粹にその自治体を応援しようという思いと、それから、ややもすれば、返礼品を一つの大きな目的として、その自治体に寄附をするというようなことがあるのかなというふうに思っています。千数百万円という中でも、私ども信濃町も、当然それに掛かる経費の問題もございしますので、半分ぐらいが実入りかなというふうに思うところがあります。いずれにしても、例えば、飯綱町が1億数千万、そしてまた3億円近くなると、こういうことでございます。やはり返礼するその品物と言いますか、それがりんごであったり、あるいは長野県下の中では、今まさにシャインマスカットとか、ながのパープルとか、全国的から見ると、極めて魅力的な、言ってみれば、平たく言えば、お返し品があるというようなことで、そういう物が、なかなかこの一茶の俳句もあるのですが、この信濃町は、なかなか果物

## 令和3年第419回信濃町議会定例会9月会議会議録（4日目）

---

類ができないというのが今までの流れでございます。そういう中で、いろいろと駆使をしながら、事業者の皆さんにも協力をいただきながら、何とかそんな返礼品も充実をさせながら取り組んでいるということでございますので、北村議員さんからもいろいろなアイデアがありましたら、またご提案を頂戴できればと思います。いずれにしましても、引き続き、ふるさと納税の関係についても、PRを含め、また進めてまいりたいと思っています。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆2番（北村秋敏） それでは最後に、現実として、果物などを扱っている市町村はやはり金額も多く集まるようですけれども、その点、信濃町の場合は若干、弱い所もありますが、今後、創意工夫をして取り組んでいってほしいなと思っています。これをもちまして、ふるさと納税の質問を終わります。

●議長（佐藤武雄） 以上で、北村秋敏議員の一般質問を終わります。この際、10時35分まで休憩といたします。

（終了 午前10時23分）